

情報通信審議会 情報通信技術分科会 移動通信システム委員会
UWB 無線システム作業班（第5回）議事要旨（案）

1 日時

平成25年4月22日（月） 13:30~15:00

2 場所

中央合同庁舎第2号館10階 共用会議室2

3 出席者（敬称略）

主 任 : 高田（東京工業大学）

主 任 代 理 : 三浦（（独）情報通信研究機構）

構 成 員 : 青山（スカパーJSAT（株））、明山（代理：近藤、（一社）日本アマチュア無線連盟）、浅野（（株）日立国際電気）、井家上（明治大学）、池田（NHK放送技術研究所）、石田（代理：渡辺、クアルコムジャパン（株））、石塚（電気事業連合会）、伊丹（東京理科大学）、大木（（株）東芝）、大村（代理：齊藤、（一社）電波産業会）、亀谷（国立天文台）、川口（代理：佐藤、全日本空輸（株））、川端（（株）富士通システム統合研究所）、北（日本電信電話（株））、鬼頭（日本電気（株））、菅田（KDDI（株））、関口（代理：近田、シャープ（株））、高田（（一社）日本民間放送連盟）、剛（代理：藤井、（株）NTTドコモ）、中川（（一財）テレコムエンジニアリングセンター）、野田（（株）日立製作所）、林（日本テレビ放送網（株））、松村（（株）ダイフク研究・研修センター）、三宅（日本無線（株））、李（（独）情報通信研究機構）

事 務 局 : 中越、齋藤、中川（総務省移動通信課）

4 配布資料

資料U作5-1	前回議事要旨（案）	事務局
資料U作5-2	とりまとめ案照会に対する意見及び修正	事務局
資料U作5-3	衛星・小電力アドホックグループの検討結果	井家上構成員
資料U作5-4	携帯電話アドホックグループの検討状況	李構成員
資料U作5-5	交流電源接続に対する意見	野田構成員
資料U作5-6	バッテリー接続機器から信号を送信する例	松村構成員
資料U作5-7	交流電源接続規定へのコメント	大村構成員
資料U作5-8	今後のスケジュール	事務局
別添資料1	報告書目次案	事務局
別添資料2	放送との共用条件	事務局
別添資料3	衛星局・地球局との共用条件	事務局
参考資料1	UWB 無線システム作業班構成員	事務局
参考資料2	各アドホックグループ構成員	事務局

参考資料3	情報通信審議会 情報通信技術分科会 移動通信システム委員会運営方針	事務局
参考資料4	UWB 無線システム作業班運営方針	事務局

5 議事

(1) 前回議事要旨（案）について

事務局より、資料U作5-1に基づき、第4回 UWB 無線システム作業班の議事要旨（案）について説明があった。特段の意見等なく承認された。

(2) 各アドホックグループの検討結果及び検討状況について

事務局より、資料U作5-2に基づき、とりまとめ案照会に対する意見及び修正について説明があった。また、井家上構成員より資料U作5-3及に基づき、衛星・小電力アドホックグループの検討結果について説明があり、その後李構成員より資料U作5-4に基づき、携帯電話アドホックグループの状況について説明があった。

質疑応答の概要は以下のとおり。

野田構成員： 資料U作5-3のスライド9、10の共用条件の部分で、屋外利用の文言を削除すべきである。

高田主任： 今回は屋外を検討していないため、屋外の文言は削除するということでよいか。

事務局： 承知した。

石塚構成員： 共用条件部分で、需要が予測よりも伸びる場合はどの文言があるが、この予測は H17 年度答申時の予測か、それとも今回の検討で見直した予測か。

事務局： H17 年度答申時の予測である。報告書の書きぶりについては検討する。

高田主任： 携帯電話アドホックグループの検討について、LDC と DAA は電力だけでなく信号も検討するのか。

李構成員： まずは、離隔距離の計算を行う。

高田主任： これらを含めて離隔距離の計算を行うということか。携帯電話アドホックグループについては引き続き検討をお願いしたい。

また、事務局より、別添資料3「衛星局・地球局との共用条件について案」に関しては、5/2 を期限として構成員に意見を伺うとの説明があった。

(3) 交流電源接続規制に対する意見について

野田構成員、松村構成員及び齊藤構成員代理より、資料U作5-5～資料U作5-7に基づき、それぞれ交流電源接続に対する意見、バッテリー接続から信号を送信する例及び交流電源接続規定へのコメントについて説明があった。

質疑応答の概要は以下のとおり。

青山構成員： 問題点を確認したい。1つ目は規定の変更はセンサー用途だけでなく通信用途も想定しているのか。2つ目は交流電源に接続しないといけな

- いことを撤廃するのか、それとも ACK を受けた後でなければ電波を発射してはいけないという機能を撤廃したいのか。
- 野田 構 成 員 : 今回の検討での普及予測は、センサー用途と通信用途でひとまとめのため、両方の用途で撤廃していただきたい。また、交流電源に接続することか ACK については、UWB を移動して動かすものはバッテリー駆動となり、これを考える上では交流電源接続そのものを撤廃していただきたい。
- 青山 構 成 員 : DC など交流電源でなかったとしても、何らかの信号を受けてからでないと電波を発射してはいけないという機能を撤廃したいのか。例えば、資料U作5-5のスライド3の欧州部分にある「対向する受信機から ACK を受け取らなければ送信を 10 秒以内に停止する。」の対向する受信機とは交流もバッテリー駆動も含まれている。
- 野田 構 成 員 : 欧州は交流電源に接続している無線設備からの信号を受けなければならないという規定はない。
- 高 田 主 任 : 青山構成員の意見は、何かしらの制限を設けないと規制緩和しすぎとなることへの懸念だと考える。交流電源接続を撤廃するのであれば、電波を止める機能は他で担保されるのか。それとも全て撤廃してしまうのか。
- 野田 構 成 員 : 規定として無線 LAN と同じにしていいただきたい。ものづくりの観点からすると、バッテリーがなくなるため無差別に電波を発射することはない。
- 高 田 主 任 : 他の無線システムの屋内限定の規定と同様としてほしいということか。他の意見提出者の考えはどうか。
- 松村 構 成 員 : タグの性能を考えると親機からの ACK がないと困る。固定機（親機）を外に持ち出すことは困難であるが、タグは持ち出すことができる。
- 高 田 主 任 : ユーザーがミスを犯さないように注意しなければならないということか。
- 齊 藤 構 成 員 代 理 : 提出した意見以上の検討は ARIB では行っていない。
- 高田 構 成 員 : 周波数割当計画で周波数が割り当てられている 5GHz 帯無線 LAN と割当てがなく別表扱いとなっている UWB を同じ土俵として検討を進めていいのか。
- 事 務 局 : 確かに UWB は別表扱いであるが、無線設備規則で規定すべきものについては、無線 LAN 同様に規定していく必要があると考える。
- 菅田 構 成 員 : 交流電源接続だけでなくバッテリー供給も認めてほしいという意見であるが、H17 年度の検討では、屋内利用を担保するために交流電源接続の規定が組み込まれた。給電についてよりも屋内担保ということに焦点を当てて議論すべきである。
- 高 田 主 任 : 屋内で運用することを前提として、撤廃するのはいかがか。意見がなければ事務局と相談して今後の進め方を考える。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局より、資料U作5-8に基づき、今後のスケジュールについて説明があった。
特段の意見等なく承認された。

(5) その他

事務局より、次回の作業班（5月下旬を予定）において、ある程度の報告書案を提示した
いため、第4章と第5章を除く報告書案について事前にメール審議するとの説明があった。

以上